



鹿児島県立大口高等学校 同窓会通信

忠元 TADAMOTO

4
April
2024



校長・各支部長挨拶
大口高校卒業式
入学式



「変革の時期を乗り越えて」



鹿兒島県立大口高等学校同窓会
忠元会 副会長 田中 浩太郎
同窓生の皆様いかがお過ごしでしょ
うか？

いまだコロナに注意が必要とされるも、
ようやく落ち着きましたが災害や事故・

事件が絶えず、はやく安心して暮らせ
ようになりたいと思っております。

さて私は大口高等学校創立90周年が
もうすぐというころ貴島名誉会長にお
声掛けいただき、本部同窓会の運営
をお手伝いさせて頂いております。
気づけばあっという間の10年が過ぎ
去っていて、今度は3年間掛けて100
周年の準備に奔走した日々でした。コ
ロナ禍ということもあり様々な制限のも
と、はじめての経験をさせて頂きま
した。

本年度も6月8日(土)東京同窓会、6
月15日(土)関西同窓会8月16日(金)
本部同窓会が開催予定です。是非同
窓生の皆様にお声かけいただき大勢
のかたで宴を盛り上げていただきたい
と思います。各同窓会では若年層に

参加料金割引など工夫もされておりま
すので若手の皆様も是非とも参加して
いただきたいです。

永年、会報誌「忠元」を郵送してま
いりましたが、経費が寄付金をお幅に
上回る事態が続いていたため、数回
の総会を経てホームページ上での情報
発信に切り替わりました。同窓会会員
の皆様にご不便をおかけして申し訳あ
りません。また、会費振込用紙も配布
できない状況です。HP上にあります
「運営協力金」として浄財を口座に振
り込んでいただけたら幸いです。お願
いばかりで恐縮ではありますが情報発
信等鋭意努めてまいりますのでご協力
をお願いします。

「大口高校生健在」



鹿兒島県立大口高等学校
第27代校長 吉満庄司

春爛漫の忠元公園桜まつりの会場に
大口高校のブースが並びました。会
場入口では茶道部がお茶会を催し、
満開の桜の下で来場者にお茶を点て
て振るまいました。来場した塩田知事、
池畑県議、そして橋本市長も、生徒

の点てる薄茶と大口高校米(マイ)クッ
キーを味わい、雅やかなひとときを過
ごしました。

次のブースは、伊佐市の特産である
金山ネギの販売です。「総合的な探
究の時間」で伊佐の農産物をPRしよ
うというテーマと、フードロスを減らそ
うというテーマに取り組む生徒たちが、
規格外で出荷できず廃棄される金山
ネギを農家からもらい受け販売しまし
た。10本100円という安さにあっとい
う間に完売し、伊佐の金山ネギを大
いにPRできました。

そして、生徒たちが持ち寄った図書
を廉価で販売する古本市です。伊佐
市には書店が一軒もないので、図書
委員たちが呼びかけて挑戦しました。
生徒たちは、当初は収益を全額能登
半島地震の被災地への募金しようと
考えていましたが、その後台湾でも

大きな地震が起きました。伊佐市が友
好交流協定を結んでいる花蓮市でも
大きな被害が出ており、伊佐市役所
では急遽義援金を募ることとしました。
これを知った生徒たちはいろいろ考え
たあげく、収益の半分を台湾花蓮市
へ、残りの半分を能登半島地震の被
災地に募金しました。

せちがらい世の中になってきました
が、そうした中でも生徒たちが自分の
ことのように他人のことを思いやる、
そして自分たちを育ててくれた伊佐の
ことを大切にする姿に、“大口高校生
健在”と誇らしく思いました。
そうしたことを踏まえて、入学式の式
辞で「テストでいい点数だけを取るこ
とだけでなく、人間どう生きるべきか
ということをしっかり考えてほしい」と新
入生たちに伝えました。

「Overseas (超海)」



大口高等学校東京支部同窓会
幹事長 山内信哉

通常の和訳は「海外」であろうが、私は「超海（海を超える）」と訳したい。
伊佐盆地の中に生まれ育ち、「山内」という姓が付いていた。東の山から日が昇り、西の山に沈む。これが幼年時の日常だった。そしていつのころからか、「あの山の向こうには何がある?」と思い始めた。中学・高校と地理・歴史を学び、「伊佐盆地を出る」と決めた。一度この盆地を出ると「後は何処に行こうか一緒。」
東京で就職し、1980年代前半をニューヨーク・ロンドンで働いた。

ロンドンには家族も帯同した。そのおかげで、英語や外国語に耳慣れ、そして「所詮ネイティブスピーカーにはなれない。わからなければ『わかるまで聞き返せば良い。』』という度胸も付いた。怖じず・恥じず。
後輩の若者たちに伝えたい。「怖じず・恥じず、目標に向かって突き進め!」と。
齢を重ね、耳が遠くなった。まさか何度も聞き返す羽目に陥るとは考えもしなかった。青春は一度しかない。「鳴こかい、飛ほかい、泣くよかひっ飛べ!」

「日記を書き続けて」



大口高等学校関西支部同窓会
副会長 四方田昭年

母校は令和四年に創立百周年を迎えました。卒業生は二万三千人に達し、歴史を感じます。質実剛健の風土と剛・和・新の教訓の環境に育った事に感謝します。小生は湧水町吉松から通学し、高校時代は「青雲の志」もなく漠然と過ごしました。現在は京都山科に閑居して、今年は数えて米寿になります。
関西支部同窓会には毎年同窓生に会うのを楽しみに出席しています。職歴は防衛省・国土交通省（航空局）・関西国際空港（株）に奉職しましたが、同窓生の存在が大変心強くお世話になりました。日記を書き始めたのは成人式の日からです。人間は誰しも生老病死の道をたどるので「生きた証」

として、日常生活の記録である日記を書く効能等考えず現在まで書き続けてきました。
日記帳は最初は子作りでした。書く内容は何でも有りて、日常の出来事が主で気象状況に始まり、職場では業務日記になり、旅行すれば紀行文、読書、映画の感想文等、不平不満も書きました。
書く事により過去も振り返る事もできて、職場・家族に少しは参考になりました。人生は毎日が修行とっていますが、日記を書く事は一日のルーティンとして大切な一つであり、書き終わると一日を充実して過ごした気持ちになります。生きている限り「自分史」して書き続けるつもりです。

第76回大回高校卒業式

3月1日、第76回卒業式を挙行之、36人の卒業生が学び舎を巣立っていきました。学校長式辞では「一度しかない人生、あなたはどうか生きてください。」という最後の問いが出されました。「解答用紙はそれぞれの人生。正しい答えはない。よーい、始め。」と締めくくられ、悔いのないよう精一杯頑張ってくださいという熱いエールが込められました。



忠元公園桜まつりに参加

前述の吉満校長先生のお話にもありましたが、3月31日忠元公園桜まつりの会場に大口高校ブースが出店いたしました。



収益は伊佐市役所を通して台湾花蓮市、能登半島地震の被災地に募金しました

■大回高校入学式

4月9日、令和6年度の入学式が行われました。今年は30人の新入生を迎え新たな学びの旅が始まりました。入学式では、生徒たちが、新たな友達との出会いや先生方のご挨拶が行われました。校長先生の式辞では、生徒たちに対して新たな学校生活を充実させるための努力や校歌に秘められた気持ちが語られ、生徒たちはその言葉に耳を傾け、これからの学舎の第一歩を踏み出していました。



■新ポスター、横断幕、学校案内パンフレット

令和7年度の生徒募集に向けて、学校紹介の大型ポスター、元気こころ館横の横断幕、そして学校案内パンフレットを作成しました。デザイナーの石田萌さんとマツモト写真館と連携して作り上げました。今後あちらこちらで見かけるとお思いますので、大口高校の応援よろしくお願いたします。



■大回屋台横丁

3月17日、伊佐市商工会前駐車場で元町通り会屋台横丁が開催され、大口高校は「大口高校米(マイ)クッキー」で出店しました。クッキーを開発した溝口葉菜さんと川原咲蘭さんをはじめ、2人が所属するソフトテニス部8人全員が助っ人として手伝いに来てくれました。天気には恵まれませんでしたでしたが、それでも多くの方が購入してくださいました。

